

# 「知床」の世界自然遺産への推薦について

## 1. 遺産名：知 床 (Shiretoko)

## 2. 所在地：ほっかいどうしやりぐんしやりちやう 北海道斜里郡斜里町めなしぐんらうすちやう 及び目梨郡羅臼町

オホーツク海と根室海峡に接した北海道北東部の知床半島に位置し、半島中央部には最高峰の羅臼岳（標高 1,661m）をはじめとする標高 1,500mを超える火山群（知床連山）が縦走している。

## 3. 推薦区域等：

### (1) 推薦区域

推薦地は、国内法等に基づく以下の地域から構成される。

- ・おんねべつだけげんせいしぜんかんきやうほぜんちいき 遠音別岳原生自然環境保全地域（自然環境保全法）
- ・知床国立公園（自然公園法）
- ・知床森林生態系保護地域（国有林野管理経営規程）
- ・国指定知床鳥獣保護区（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律）

### (2) 面積\*

核心地域：34,000 ha

緩衝地域：22,100 ha（海域：7,400 ha を含む）

合計：56,100 ha

\* 現在、知床森林生態系保護地域の拡張に向けた手続きを進めているところであり、上記面積には拡張見込み地が含まれている。

## 4. 共同推薦省庁：

環境省、林野庁及び文化庁

## 5. 概要：

季節海水域の特徴を反映した海洋生態系は、陸上生態系と連続することによって複合生態系を形成しており、推薦地はその仕組みを示す顕著な見本である。海氷がもたらす栄養分によってアイス・アルジー（氷に付着した藻類）などの植物プランクトンが大量に増殖し、それを出発点とする食物連鎖は海 - 川 - 森の各生態系にわたるダイナミックな食物連鎖網を形成している。

季節海水域としては世界で最も低緯度に位置する知床半島では、アイス・ア

ルジーの大増殖や融氷に伴う植物プランクトンの大増殖が周辺海域に先駆けて起こり、これが海生生物の餌条件や生活史の一部を支えている。融氷期の豊富な餌資源を利用して育ったサケ・マス類などの魚類は、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの希少鳥類や、ヒグマの重要な餌資源として陸上生態系を支えている。また、海岸から約 1,600m の山頂部までの間には、人手の入っていない多様な植生が連続して存在しており、豊富な餌資源と多様な環境を背景として、ヒグマは世界的にも高密度で生息している。

さらに、知床は、北方系と南方系の両系の種が混在するなど、地理的位置と多様な自然環境を背景として特異な種構成、分布がみられるほか、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっており、これらの種の存続に不可欠な地域となっている。

海氷や紅葉など、四季の変化に富む原生的な景観は優れた自然美を有する。また、波浪に加え、海氷の浸食作用等を受けて形成された海食崖は 100m 以上の高さ及び、太古から現在までの壮大な時間の流れの中で形成された類い希な自然美を有する。知床連山の硫黄山<sup>いおうざん</sup>は高純度の溶融硫黄を大量噴出することで世界的にも有名であり、現在も噴気・熱水活動や温泉等の自然現象がみられる。河川を遡上するサケ・マスの群れやそれを捕食するヒグマの様子など、野生生物の営みを観察できることも推薦地の自然景観の魅力である。

## 6. 世界自然遺産としての価値：

### (1) クライテリア（評価基準）との関係

#### クライテリア（ ）：生態系

世界で最も低緯度に位置する季節海氷域の特徴を反映した海洋生態系は、陸上生態系と連続することによって複合生態系を形成しており、知床はその仕組みを示す顕著な見本である。

#### クライテリア（ ）：自然景観

海氷や紅葉など、四季の変化に富む原生的な景観は優れた自然美を有する。また、硫黄山<sup>いおうざん</sup>は大量の溶融硫黄を噴出する希少な火山である。

#### クライテリア（ ）：生物多様性

知床は北方系と南方系の種が混在するなど、地理的位置と多様な自然環境を背景として特異な種構成、分布がみられる。また、シマフクロウやオオワシ、オジロワシなどの国際的希少種を保全する上で重要な生息地となっている。

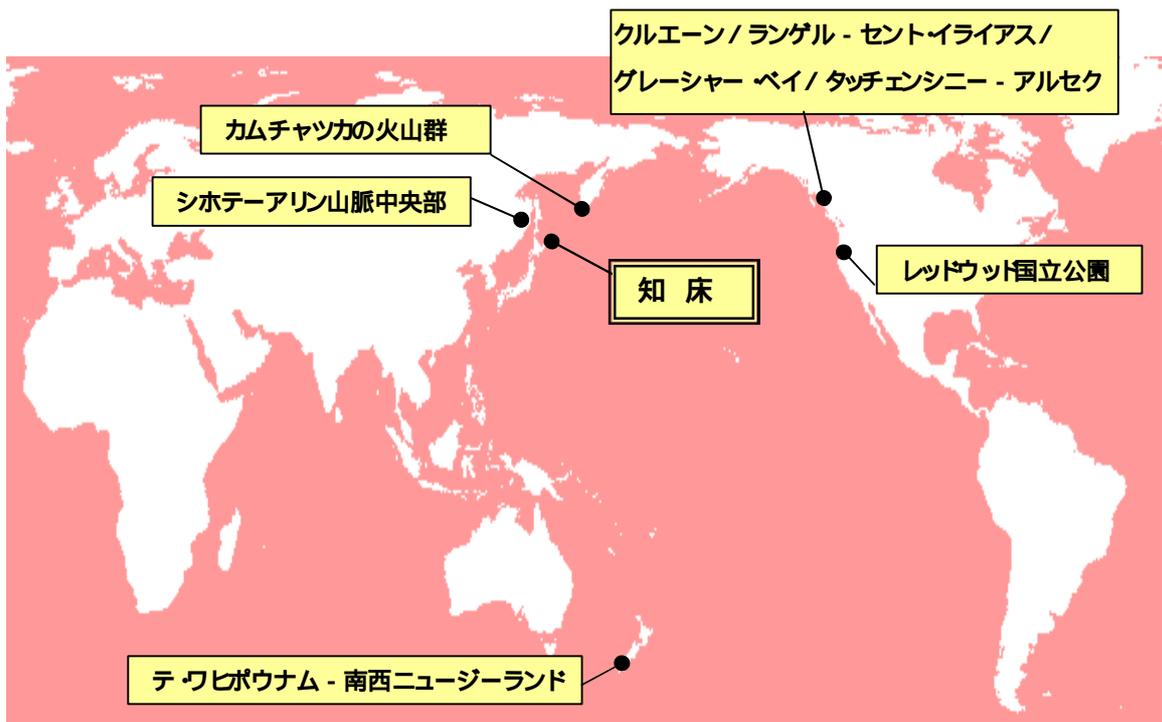
## (2) 保護の担保措置

知床は、国内法等に基づく複数の保護区（原生自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域など）に指定されており、既に長期的に適切な保護を受けている。また、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシ等の野生生物の一部は絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律や文化財保護法に基づく天然記念物として保護されている。

なお、上記保護区を所管する各機関や地元自治体、地元関係者からなる地域連絡会議によって、統合的な管理計画の検討が進められ、平成15年12月に管理計画（案）が取りまとめられている。同管理計画（案）は平成16年1月に環境省、林野庁、文化庁及び北海道によって正式決定されている。

## (3) 類似遺産との比較

世界遺産の登録審査の比較評価に使用される Udvardy の生物地理区分において、知床と同じ群系「温帯広葉樹林及び亜寒帯落葉低木密生林」に属する世界自然遺産登録地のうち、森と海を包含する自然遺産はロシアの2箇所のみである。また、知床と同緯度に位置し、森と海を包含する自然遺産は北米2箇所、オセアニア1箇所であり、計5箇所の類似遺産が存在する。海と森による複合生態系の仕組みを示す顕著な見本である知床は、上記5箇所と比較して、海氷の有無、生物相のいずれかの面で異なっているとともに、種の多様性についても、同等、あるいは優れている。したがって、知床と同様の価値を有する既存の自然遺産は存在しない。



## < 森と海のある類似の自然遺産 >

### < シホテーアリン山脈中央部 (ロシア) >

知床と同じ生物地理区分に属する唯一の世界自然遺産登録地であり、ウスリータイガ（混交林）の森林生態系の多様性を特徴とする。しかし、同地域の混交林は針葉樹を主にするのに対して、知床の混交林は落葉広葉樹が優占している点で異なる。また、知床は季節海氷域の特徴を反映した海洋生態系を有しており、海棲哺乳類及び魚類については、知床の方が種数が多く、海洋の多様性は同地域より高い。

### < カムチャツカの火山群 (ロシア) >

多様性に富んだ火山現象と生物多様性が評価され、世界自然遺産として登録されているが、鳥類については、知床の方が種数が多く、多様性に富んでいる。また、カムチャツカ半島もオホーツク海に面しているものの、登録地はカムチャツカ半島脊梁部から太平洋側に面する一帯であるため、海氷の接岸はほとんどみられない。

### < レッドウッド国立公園 (アメリカ) >

太平洋に面した森林山岳地帯で、年間降水量が多く、針葉樹を中心とした温帯多雨林や巨木を特徴としており、知床とは気候、植生を異にしている。また、海氷の接岸もみられない。

### < クルエーン/ランゲル - セント・イライアス/グレーシャー・ベイ/ タッチェンシニー - アルセク (アメリカ・カナダ) >

ツンドラ地帯の植生やトウヒ林等の針葉樹林を有し、世界最大級の氷河を特徴とする山岳地帯である。北方系の生物相を主としており、南北両方の要素を持つ知床の生物相とは異なり、特に哺乳類相や鳥類相の多様性に欠ける。

### < テ・ワヒポウナム - 南西ニュージーランド (ニュージーランド) >

氷河によって形成されたフィヨルド景観が見事であり、固有種も多い。ゴンドワナ大陸に由来するその特異な生物相は知床とは全く異なり、海氷も存在しない。